

パンフレット 「ある日の動物園ごっこ」 年長5歳児 続きの内容

遊びが始まり、子どもたちが「やりたいこと」を実現するために、これまでの経験から、使いたいものを保育者に要求してくることもあります。また保育者から「こんなものが見えるかな？」と提示することもあります。遊びながら、いろいろな「もの」との出会いを大事にしています。

『用意したものは・・・』

- ライオンのお面作り
 - ・板目紙 ・色画用紙
 - ・絵を留めればできるお面ベルト
- 動物の檻づくりでは
 - ・巧技台（こうぎだい） ・積み木
- 岩
- 段ボールで作った仕切り
- りんご バナナ ⇒園にあったもの
- 紙 ビニール袋
- 動物図鑑⇒保育室 絵本コーナー



【岩】



【仕切り】

動物園を作るのに、すでに身近にある物を使って見立てたり、自分たちで作ったりするんだ！



＊子どもの「こうしたい！」という気持ちやイメージを受けて、材料を用意しています。大きな積み木や中型のウレタン積み木等も使うことがあります。

けがにつながらないように、どのようなことに気を付けたらいいかを子ども同士で考えさせたり、保育者が直接伝えたりすることもあります。

『遊びが進んでいく中で、用意したものもあります』

✧ そう役が出てきた！

- ・そうのお面が作れるように⇒画用紙 ホッチキス ゴム等は、製作コーナー（画用紙等が置いてある場）に常設している
- ・水に見立てられる青いポンポン ⇒ 他の用途として作ってあったもの

✧ 飼育員役が出てきた！

- ・ほうきを作る材料 ⇒ 段ボール、スズランテープは、製作コーナーから持ってくる

＊遊びながら、イメージの広がりが見られるときもあります。その場で、作りたいものによって、何があるときのか子どもから聞いたり、一緒に考えたりしています。下の写真は、園内の環境の一部です。



【製作コーナー】



【ウレタン積み木】



【巧技台】



【牛乳パックで作ったついで立て】

園の中には、子どもたちのやりたいことができるような物や材料が、いっぱいあるんだね。

